

2020 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 臨床工学技士学科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|--|----------|-----------------|---|---------------------------------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 人間工学 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年次 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 403 |
| 担 当 教 員 | 岡本 覚 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 人間工学的観点から部品、装置及びシステムの信頼性、保全性、アベイラビリティの考え方と基本的技法及び管理業務との関連について学ぶ。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| レポート課題、小テスト、期末試験、出席状況等を総合的に加味して評価する。総合成績(100満点)で60点以上を合格とする。 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 医療安全に活かす「医療人間工学」、佐藤幸光・佐藤久美子著、(株)医療科学社 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 適宜、レポートの課題を課すので、期限までに提出すること。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 人間工学の見方、考え方、方法に関する知識の習得を目指す。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間工学の見方、考え方、方法に関する知識、特に医療安全への基礎的アプローチの習得を目指す。 | 医療安全に活かす「医療人間工学」、佐藤幸光・佐藤久美子著、(株)医療科学社 | 課題に対するレポートを提出させる。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療安全への基礎的アプローチ:人間工学とは | | | |
| 第2回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間工学の見方、考え方、方法に関する知識、特に意識レベルの認知他の習得を目指す。 | 医療安全に活かす「医療人間工学」、佐藤幸光・佐藤久美子著、(株)医療科学社 | 課題に対するレポートを提出させる。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療安全への基礎的アプローチ:意識レベルの認知他 | | | |
| 第3回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間工学の見方、考え方、方法に関する知識、特に人間の行動レベル、意志決定のプロセスの習得を目指す。 | 医療安全に活かす「医療人間工学」、佐藤幸光・佐藤久美子著、(株)医療科学社 | 課題に対するレポートを提出させる。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療安全への基礎的アプローチ:人間の行動レベル、意志決定のプロセス | | | |
| 第4回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間工学の見方、考え方、方法に関する知識、特にヒューマン・エラーの定義と分類の習得を目指す。 | 医療安全に活かす「医療人間工学」、佐藤幸光・佐藤久美子著、(株)医療科学社 | 課題に対するレポートを提出させる。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 人間特性としてのヒューマン・エラーと医療安全:ヒューマン・エラーの定義と分類 | | | |
| 第5回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間工学の見方、考え方、方法に関する知識、特に人間特性としてのヒューマン・エラーと医療安全の習得を目指す。 | 医療安全に活かす「医療人間工学」、佐藤幸光・佐藤久美子著、(株)医療科学社 | 課題に対するレポートを提出させる。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 人間特性としてのヒューマン・エラーと医療安全:ヒューマン・エラーの発生要因 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|--|---|-------------------|
| 第6回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間工学の見方, 考え方, 方法に関する知識, 特に人間特性としてのヒューマン・エラーと医療安全の習得を目指す。 | 医療安全に活かす「医療人間工学」, 佐藤幸光・佐藤久美子著, (株)医療科学社 | 課題に対するレポートを提出させる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 人間特性としてのヒューマン・エラーと医療安全:ヒューマン・エラーの防止対策 | | |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間工学の見方, 考え方, 方法に関する知識, 特に医療従事者の疲労の予防と回復の習得を目指す。 | 医療安全に活かす「医療人間工学」, 佐藤幸光・佐藤久美子著, (株)医療科学社 | 課題に対するレポートを提出させる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 労働安全衛生の視点からのアプローチ:医療従事者の疲労の予防と回復 | | |
| 第8回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間工学の見方, 考え方, 方法に関する知識, 特に医療従事者のストレス対策と予防の習得を目指す。 | 医療安全に活かす「医療人間工学」, 佐藤幸光・佐藤久美子著, (株)医療科学社 | 課題に対するレポートを提出させる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 労働安全衛生の視点からのアプローチ:医療従事者のストレス対策と予防 | | |
| 第9回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間工学の見方, 考え方, 方法に関する知識, 特に医療従事者のメンタルヘルスキアの習得を目指す。 | 医療安全に活かす「医療人間工学」, 佐藤幸光・佐藤久美子著, (株)医療科学社 | 課題に対するレポートを提出させる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 労働安全衛生の視点からのアプローチ:医療従事者のメンタルヘルスキア | | |
| 第10回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間工学の見方, 考え方, 方法に関する知識, 特にリスクマネジメントの基本プロセスの習得を目指す。 | 医療安全に活かす「医療人間工学」, 佐藤幸光・佐藤久美子著, (株)医療科学社 | 課題に対するレポートを提出させる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療におけるリスクマネジメントの基礎:リスクマネジメントの基本プロセス | | |
| 第11回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間工学の見方, 考え方, 方法に関する知識, 特にインシデント報告の意義と推進の習得を目指す。 | 医療安全に活かす「医療人間工学」, 佐藤幸光・佐藤久美子著, (株)医療科学社 | 課題に対するレポートを提出させる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療におけるリスクマネジメントの基礎:インシデント報告の意義と推進 | | |
| 第12回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間工学の見方, 考え方, 方法に関する知識, 特に医療事故防止のためのアプローチの習得を目指す。 | 医療安全に活かす「医療人間工学」, 佐藤幸光・佐藤久美子著, (株)医療科学社 | 課題に対するレポートを提出させる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療におけるリスクマネジメントの基礎:医療事故防止のためのアプローチ | | |
| 第13回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間工学の見方, 考え方, 方法に関する知識, 特に医療事故発生のメカニズムの習得を目指す。 | 医療安全に活かす「医療人間工学」, 佐藤幸光・佐藤久美子著, (株)医療科学社 | 課題に対するレポートを提出させる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療事故とその対策:医療事故発生のメカニズム | | |
| 第14回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間工学の見方, 考え方, 方法に関する知識, 特に医療事故とその分析例の習得を目指す。 | 医療安全に活かす「医療人間工学」, 佐藤幸光・佐藤久美子著, (株)医療科学社 | 課題に対するレポートを提出させる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療事故とその対策:医療事故とその分析例 | | |
| 第15回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間工学の見方, 考え方, 方法に関する知識, 特に医療事故当事者に対するサポートの習得を目指す。 | 医療安全に活かす「医療人間工学」, 佐藤幸光・佐藤久美子著, (株)医療科学社 | 課題に対するレポートを提出させる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療事故とその対策:医療事故当事者に対するサポート | | |